

こどもの権利プロジェクトの状況報告

1. 申込結果

申込期間:7月6日(月)～7月24日(金)

周知方法:学校を通じたチラシ配布、公共施設等へのチラシ設置、こども関係団体への協力依頼、市ウェブサイトへの掲載、市公式 LINE・子育てアプリ TonTon での配信、令和7年度「こどもの権利条例いっしょに作ってみたい会」参加者への個別案内 等

申込人数:18名 【内訳】小学生11名、中学生4名、高校生3名

令和7年度「こどもの権利条例いっしょに作ってみたい会」からの継続参加者 10名
応募のきっかけ:市広報誌6名、チラシ・ポスター6名、友人・知人からの紹介1名
学校からの案内4名、その他(市からの案内)1名

2. 第1回の実施結果

回・日時・場所	参加人数	内容
【第1回】 R8.8.4(火) 10:00～12:00 @Topic	18名	【テーマ】 こどもの権利を学ぼう！ ●富田林市こどもの権利条例やこどもの権利について学ぶ ●『話したい・聞いてほしい』をテーマに、自分の経験や思いを共有するワークショップを実施する ●安心して意見を伝えられる場づくりを行い、参加者同士の関係づくりを進める

※ワークショップは「NPO 法人きんきうえぶ」(委託)により進行

(1) 当日の様子



認定証交付



集合写真



グループワーク



グループワーク

(2) ワークショップの進め方

- ・3グループに分かれてグループワークを実施
- ・各テーブルには大人のファシリテーター補助を配置
- ・A:小学生グループ(5名) B:小学生グループ(6名) C:中高生グループ(7名)

(3) こどもたちの意見(一部)

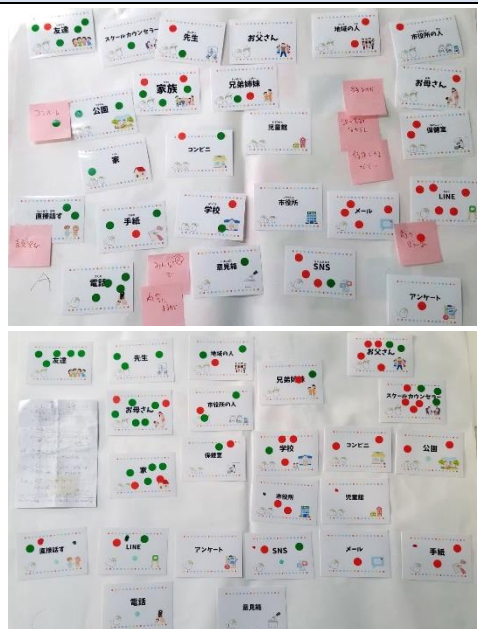
①「話しやすい人ってどんな人？」

⇒自分の経験や思いを付箋に書き、模造紙に貼付

意見・傾向	模造紙
やさしい／聞き上手／しっかり考えてくれる／最後まで聞いてくれる／信頼できる／自分のことをよく知っている／寄り添ってくれる／話を広めない／あいづちを打ってくれる／いっしょに考えてくれる／AI／アドバイスをくれる 等 全グループ共通して、「信頼」「共感」「相手に伝わる実感」に関するキーワードが多くあげられた。	

②「話しやすいのは、どこ？だれ？どうやって？」

⇒人・場所・手段カードにシールを貼付（緑色＝話しやすい／赤色＝話しにくい）

意見・傾向	模造紙
『人』は、地域や行政への距離感があり、家族、友達など身近な人ほど「話しやすい」傾向にあった。 『場所』は、家、公園などが「話しやすい」傾向にあった。市役所は「話しにくい」もしくはシール自体が貼られない傾向にあった。 『手段』は、小学生の場合、直接話すなど、対面の手段が「話しやすい」傾向であったが、中高生はSNSやLINEといったデジタルツールが「話しやすい」傾向にあった。 また、「先生(人)」、「スクールカウンセラー(人)」、「学校(場所)」については、「話しやすい」と「話しにくい」が混在しており、個々の関係性次第ということが伺えた。	

3. 今後の予定

回	日時・場所	内容
第2回	R8.8.18(火) 10:00～12:00 @Topic	【テーマ】 こどもの声をまちに届けるにはどうすればいい？
第3回	R8.8.25(火) 10:00～12:00 @Topic	【テーマ】 こんな仕組みがあったらいいな！
第4回	R8.11.14(土) 10:00～12:00 @Topic	【テーマ】 発表の準備をしよう！
第5回 (発表会)	R8.11.28(土) 時間未定 @すばるホール	【テーマ】 発表イベント(条例制定記念セレモニー)